NTS物語

番外編2

新・天のシルクロード
～凧はいつ空を舞った？～（2）

代表取締役　吉田　隆

●'木の鳥'中国の空を舞う！

凧は中国の空を、すでに2500年前（紀元前５世紀）に舞った。'墨子'が木の鳶（とび）を揚げた。人はそれを'木鳶（もくえん）'と呼んだ。'木の鳥'は、その200年後（紀元前3世紀）の中国の上空も舞った。'公輸子'が竹木を削って揚げた「鵲（かささぎ）」が三日間空から下りてこなかった！と人々の喝采を浴びた。'公輸子'は、自らの至巧の作に得意揚々だったと史料は伝える。つまりすでに当時、凧アートとその取巻き文化があったのだろう。同じ頃、凧は未央宮城の上空を舞う。前漢の英雄'韓信'（紀元前196年頃没）が、敵陣までの距離を、トンネルを掘って測るための測量用具に使った。はたして、それは木の鳥だったのか、紙の鳥だったのか？蔡倫が紙を発明（西暦105年）する前だから、当然木の鳥だと言うことはたやすいが、蔡倫より前の西暦100年に発刊された『説文解字』（許慎著）には、紙のない時代なのになぜか「紙（し）」の項目がある（『紙の道』）から、よく考える必要がある。すでに墨子から2000年以上経過している。文化の変容には十分な時間である上、紙の登場まで間近ではないか。その凧は原典（『事物起源』）では何と表現されているだろう。私はその頃空を舞い始めた'紙の鳥'だったかも知れないと夢想する。

●「紙」か「布」か？

ここで少し「紙」の話をしたい。『紙の道』によれば『説文解字』にある紙（し）とは、実は「文字を書くために細かく織られた絹（シルク）の一種」であり、いわゆる紙（かみ）ではない。ところが、この紙（し）は値が張ったため、人々に不便だった。そこで、蔡倫が工夫して樹皮、麻、ぼろ布、魚網を用いた紙（し）を考案したため、人々はそれを「蔡候紙（し）」と呼び、絹の紙（し）と区別した。それが今の紙（かみ）の始まりである、と陳舜臣は語る。つまり、私のつたない理解によれば、紙（かみ）の前にまず絹の紙（し）があり、その後、蔡倫が麻で紙（し）を発明した。

だが、1933年、蔡候紙より154年前（紀元前49年）の麻の紙が発見され世界に衝撃を与えた。その紙面には麻の筋が残り、紙がようやく誕生しようとしていたころの姿を伝えた。同時に、麻の紙（し）が想像以上の歴史を持つことも人々は理解した。古（いにしえ）のこと、麻や絹の紙は清らかな水辺で誕生した。麻や絹織物の繊維の生産のため、何百年、何千年も昔から、女性たちが水のほとりで麻や絹などの素材を水で撃って白くした。その作業を「漂」と呼び、女性たちは「漂母（ひょうぼ）」と呼ばれた。白くなった素材をスノコにさらすと、糊状の繊維素が後に残る。それを乾かすと薄片となる。それが、漢代になり、「紙（し）」とネーミングされた（『紙の道』）。つまり、その頃、紙の用途が定着し始めた。私たちの紙は織物の副産物として誕生し、生みの親は名も無き女性たちだった。

その紙（し）の大量生産法を発明したのが蔡倫である。

『説文』にある絹の紙（し）は、後漢当時、それなりに流通を始めた麻・綿の紙（し）の応用だったのだろうか？「蔡候紙（し）」はやがて、「紙（かみ）」へと進化する。

ところで、韓信は若いころ、悪童のいじめにあい股くぐりをするほどみじめな時期があった。その彼が腹ぺこで川辺で釣りをしているのを見かねた一人の「漂母」が飯をくわせ、それが何日も続いた。のちに楚王に封じられた時、その「漂母」を探し出して千金を与えたのは有名な話だ。韓信の凧が'紙の鳥'だったかも知れないという夢想はそんな事情による。つまり、韓信は紙は紙でも「布の紙」という新兵器を駆使して名将の誉れを得た？それは凧にとっても木から紙への素材変革の時期でもあった？

●'紙の鳥'日本へ！

そして、韓信から約1000年後の平安時代（紀元９世紀）の日本の空を凧は舞っていた。その凧は「紙鳶（しえん）」と呼ばれた。

（訂正：前号で、「チンギス・ハーンやチムールの活躍」が、10～14世紀とあるのは13～14世紀の、また、「千夜一夜物語」の10世紀当時は、9世紀頃に訂正しお詫び申し上げます。）

韓信凧あげの図（『世界の凧』）より。
文中『紙鳶』とあるが、『事物起源』より後代の書からの引用であるため、原書の表記は不明。

◉編集後記

『一年の計は元旦にあり』まず初めに計画を立てて事に当たるべき。いつもの事ながら、年の初めは今年こそと意気ごみを持って向かえるのですが‥‥。今日できる事を明日に延ばし、一週間、一ヶ月、一年と過ぎてしまう私。でもとりあえず新年はまた新しい気持ちで（去年の積み残しなどすっかり忘れ）計画を立てる。それも一つ二つではなく、計画というよりは夢、無謀なものも多々ある。過ぎてしまえば、また今年も計画倒れとなるかもしれない。でもいいじゃないですか、その繰り返しで、ちょっとづつ成長できるかもしれませんから（笑）。今年も元気に楽しく、色々な事に挑戦しましょう。（あしだ）

◉編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-8755　東京都文京区湯島2-16-16　㈱エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係
FAX：03-3814-9152　E-mail：k-kunimoto@nts-book.co.jp

NTSニュース
2006年1月号（通巻83号）
2006年1月10日発行